

農作業事故の聞き取りによる詳細調査から得られた事故別対応策

事例

野火が思いがけず燃え広がり、消化中に火傷。
(熱傷(2度)顔面、手掌、臀部・富山県 68歳女性)

調査から分かった現場の状況

休耕田の約50~60cmの草丈の枯れ草を燃やそうと、田の周りの草を刈り取って火を点けた。燃えるのを少し高い所から確認。上手く燃えており、安心してその田の直下で畑仕事をしていた。少し経ってふと見ると、予定外の隣の家の休耕田に飛び火して燃え上がっていた。その隣りの田の縁には、前日、村の人達が刈り取った枯れ草があり、それに燃え移ると、さらにその上の山の木に火が移り、山火事になるおそれ。慌てて、持っていた鍬や鎌で必死に火を叩き、約20分後に消し止めた。



現場の写真

心に刻もう

野火は思いがけない方向に飛び火するので目を離さない

自分で今日から取り組もう

- 野火は風の強い日は実施しない。
- 野火をするときには、目を離さず、思わぬ場所に延焼しないよう緩衝帯を設ける、などの準備をする。
- 化繊の服は燃えやすいので、燃えにくい衣服を着るなど、安全対策を考える。

みんなと一緒に取り組もう

- 地域で共同して目を離さず行える体制を検討する。
- 消火や通報の訓練、体制の確認を日頃から行う。

先人の事故被害を無駄にしないために

ここには、事例に応じた対策を記載していますが、実際には、使用する機械や道具の状態、ほ場や農道の状況によって、現場に応じた様々な対応策が考えられます。地域における農作業事故根絶に向けて、どのような取組がもっとも効果的か、地域の皆様に継続して検討していきましょう。



この他にも農作業安全情報をHPに掲載!

農水省 農作業安全

検索